



お子さんの発達を支援されている皆様へ

災害による影響を受けられている皆様、ならびに感染症による影響を受けられている皆様には心よりお見舞い申し上げます。今年は6月から厳しい暑さが長く続きましたが、ようやく秋へと季節が移ろいました。過ごしやすい季節となるとともに、2025年度も折り返しです。「読書の秋」「芸術の秋」「スポーツの秋」など、新しいことに挑戦しやすい時季かもしれません。寒暖差にご注意いただきながら、ワクワクドキドキの機会に恵まれることを祈っております。

一人ひとりの発達と支援の検討に向けて

発達障害者支援法が施行されてから今年で20年が経ちました。この間、発達に支援を必要とするお子さんがお住まいの各地域では様々な支援が行われるようになり、今現在も発展を続けています。

診断名に基づく支援については書籍やインターネット等で多く目にするようになりましたが、実際には同じ診断名でもお子さん一人ひとりの特徴は異なるため、「今どのような発達の状態なのか」「どのようなことに困っているのか」「どのような生活環境や教育環境、支援方法が必要なのか」については、個別に丁寧に検討していく必要があり、より専門的に精査する必要がある方もいらっしゃると思います。

特に、社会性やコミュニケーションの発達に支援を必要とするお子さんの場合には、「周囲の人が特性を理解し、特徴に合わせてポジティブに支援していくこと」と「ご本人の将来の可能性を広げるために新しい行動レパートリーや様々なスキルを身につけられるよう特徴に合うアイデアで教えていくこと」を検討することは、とても大事になってきます。今回ご紹介する内容が、お子さん、ご家族、支援者の皆様の日々の取り組みの一助となりましたら幸いです。

お子さん、ご家族、支援者の方 皆が困っている場合には

寝ない、食べない、着替えない、歯磨きやお風呂を嫌がる、じっとしていない、おもちゃで遊ばない、出かけたとなかなか帰れない、止めると怒るなどなど毎日お互いヘトヘト…大事に育てたい思いが届かず、先が見えなくなっている場合には、身近な人にお話ししていただき、一緒に考え取り組むサポーターを増やしていきましょう。できれば、専門機関に繋がることがお勧めです。「今はやらなくても大丈夫」「とりあえずこれで十分」「ここはサービスを使いましょう」「まずはここから」など、お子さんの発達の状態を見極め、具体的に整理していくお手伝いが必要な段階です。そして、少しでもお子さんとご家族が元気に暮らせるよう、場所・時間・物・人の対応それぞれについて、お子さんの特徴に合う支援方法を見つけていきます。人の対応は状況により変化するため、お子さんにとって明確で納得のいく構造は有効なことが多いです。そして、次の段階としてお互いが歩み寄りポジティブなやりとりが続くよう「やりとりの土台」となる行動を教えていきます。注意・観察行動（相手に注意を向け、よく見たり聞いたりしようとする行動）を身につけられると、様々なことを教えられようになっていきます。当センターでは、応用行動分析に基づき、課題学習を通してお子さんが行動を学んでいけるよう、一人ひとりに合う指導方法を見つけていきます。

やらない、出来ない、覚えない…もどかしいと感じている場合には

集団にはいるけれど、何となく参加はしているけれど、やろうとしない・出来ない・覚えない…ということはありますか。家にいるとき、好きなことをしているときは大違い。。興味のあることならよく知っているし上手なのに、見ていてももどかしい。このようなときは「何をどのように頑張ったらいいのかわからない」か「そのものにやりがいを感じられていない」状況です。前者の場合にはお子さんの認知特徴に合わせて教示を工夫する必要があります。どこが行違っているのか、どのように伝えるといいのか、関わり方や提示する教材の工夫をしていきます。また後者の場合には、できるだけ早く達成し、ご本人にとって嬉しい結果を提供できるような仕組みを見つける必要があります。当センターでは、お子さんの認知特徴に合わせた教材や教示のアイデアと、お子さんが自ら達成に向かう仕組み作りを試行錯誤しながら行っています。

集団生活や社会生活でお子さんが困っている場合には

自分の身の回りのことはよくできている、活動も一生懸命取り組んでいる。個別に対応する時は問題ないけれど、集団ではお友達とうまくいかないことがあったり、困って泣いてしまったり。いつもと違うことがあると固まり、臨機応変は難しい。正しくできていたけれど、聞き返されると変えてしまう。初めての場所や初めての人とは慣れるまでとても時間がかかる。個別では大人しくしっかりできるのに集団になると大騒ぎ、遊園地の列は静かに並んでルールを守って乗れるけれど、運動会や発表会ではふざけてしまう、劇ではしっかり発表できるのに、普段の自由遊びでは友達とトラブルばかり…これらは、社会的な場面では良さが出にくい状況です。このようなお子さんの場合には、お子さんの良さが出やすい構造（場所、活動、物、対応等）を、周囲の人が実際に生活する環境の中で工夫して提供する必要があります。





ポジティブなやりとりに向けて



当センターが開設された1976年から2005年頃までは、パニックや拘りで日々の生活がままならないお子さん達がたくさん来所されていました。どうしたら大事に育てられるのか、どうしたらたくさんほめられるのか、日々悩み悪戦苦闘するご家族とともに歩む日々でした。出来ること・分かっていることを行動としてお子さん自身が表現できるように、注意・観察行動が身につく言葉や見様見真似の課題に挑戦できるように、社会生活に必要な文字や数字等が分かるように、生活に必要な技術や動作が身につくように、そして何よりも自分の行動が周囲の環境に影響を与えることを実感できるように、たくさんほめられる機会が増えるように、そして人を信じ人を好きになってもらえるように・・・ご家族・日々の支援者の方々・当センターの相談員が目標を共にしながら、特徴に合う対応アイデアを見つけられるよう、試行錯誤を積み重ねてきました。

間もなく、開設から50年を迎えます。お子さんの生活環境は当時と大きく変わり、お住まいの地域では様々な支援を受けられるようになってきています。また、お子さんが示す行動や発達の状態も多様になってきました。

様々な変化の中で変わらず抱えているのは、「ポジティブなやりとりが続くように」より専門的な支援が必要な人へ必要な支援を提供していきたいという思いです。

当センターでは、これまで蓄積してきた対応アイデアを活かしながら、以下のような支援を「お子さん・ご家族・支援者の皆様」にお届けしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

◇これまでの積み重ねを皆で共有しましょう

社会性やコミュニケーションに支援を必要とするお子さんの場合には、生活場面や集団場面では見えにくいけれども、実際には身につけていることが色々あります。日々の取り組みが影響してきたことを整理することは、次の取り組みの土台となります。お子さんの発達の状態を客観的に捉え、お子さんが学習してきた行動を整理し、これまでに積み重ねてきたことを共有するお手伝いをします。

◇これからの目標を皆で共有しましょう

それぞれのお子さんの特性により、「現状のまま支援を受けること」「将来の可能性を広げるために教えていきたいこと」を整理しながら、具体的な目標を共有していくお手伝いをします。

◇対応方法を皆で共有しましょう

目標を皆で共有し、達成していくためには、お子さんの認知の特徴や行動の特徴、どのように行動を学んでいくのか（学習スタイル）を把握した上で、それぞれのお子さんに合う対応方法を共有する必要があります。特に、具体的な関わり方をご家族や支援者の方々と実践的に共有することは、お子さんの発達を促す上で大変有効です。

◇やりとりの土台となる行動を教えましょう

知識や技術などのスキルの指導に比べて「やりとりの土台となる、人と向き合う姿勢や態度といった行動」を教えることには困難を伴います。お子さんによっては注意深く刺激を整え、特別な環境を用意して取り組む必要があります。生活場面や集団場面では困難さが強いお子さん、年齢相応・能力相応の行動を自然に学ぶことが難しいお子さんの場合には、当センターの職員がこれまで蓄積した対応アイデアを活かし、それぞれのお子さんに合う対応方法を見つけ、集中的に支援いたします。

*ZOOMにて、具体的な取り組みについてご説明しております 下記までお申込みください（無料です）

*必要に応じて、各種標準的な検査も実施しています

*ご不明な点などにつきましては、下記までお問合せください



お問合せ・お申込みは下記までご連絡ください

電話受付時間 火曜～土曜 9:00～16:00

子ども療育相談センター直通 03-3986-7060



【発行元・連絡先】

公益財団法人 明治安田こころの健康財団 子ども療育相談センター
〒171-0033 東京都豊島区高田3-19-10

発行日 2025年10月1日

わかたけ通信は
ホームページにも
掲載しています

